

レクイエム・プロジェクト神戸2022



神戸ルミナリエの会場音楽を1999年からコロナ禍で中断されるまで
21年間毎年作曲してきた作曲家・上田益が主宰する合唱プロジェクトです。
活動15周年記念演奏会(2023年1月15日)に向けて、団員募集中!

主 催：レクイエム・プロジェクト実行委員会
特別協賛：(株)ケー・エフ・シー
協 賛：三菱UFJ銀行
協 力：和田 忠<グラフィックデザイン>
(株)エムプロジェクト<ライブ配信>

2022年 1 / 23 日 開演 午後3時00分
開場 午後2時30分

会 場：日本基督教団 神戸栄光教会

ごあいさつ

作曲家、レクイエム・プロジェクト代表 上田 益

本日は、ご来場いただき誠に有難うございます。2年ぶりに有観客での開催となりました。

コロナ禍から3年目を迎えた2022年。受け止め切れないほどの情報にいまだに翻弄され、いつ終わりが来るのかよくわからないまま、疲弊する心を抱えながら時間が過ぎていきます。

阪神・淡路大震災の被災地・神戸で私が主宰して始まった「レクイエム・プロジェクト」。自然災害や戦災で傷ついた地域に広がりながら来月には活動15年目に入り、来年の1月には活動15周年を迎えることとなります。なかなか言葉で表現しにくいレクイエム・プロジェクトの活動の本質を、昨年仙台で初演し今回神戸初演を行う混声合唱組曲「また逢える」の詩を書き下ろして下さったローカル・ジャーナリストの寺島英弥さんは、こう表現して下さいました。

「音楽という方法による記憶の記録と伝承、発信と共有、その活動は形を変えたローカルジャーナリズム」

寺島さんは河北新報社の元記者で、東日本大震災被災地でもある名取市在住。ローカル・ジャーナリストとして活躍され、今もお東日本の被災地の取材を続けていらっしゃいます。

人々の分断が進み、希望と日常を奪われてきたコロナ禍の中で強く感じていたことは、『歌うこと、歌を通して表現すること、人が集い精神的な何かを共有することで支えられてきた精神生活の「質」や「心」に関わる大切な部分が、プロやアマチュアに関わらず、このコロナ禍により失われようとしている』ことへの強い危惧でした。

私たちにできることは、諦めることなく、油断することなく、失われた希望と日常を取り戻すために、粛々とこの活動を続けることだと思っています。

昨秋、レクイエム・プロジェクトの活動を心から応援して下さいっていた神戸栄光教会の主任牧師。野田和人先生が急逝されました。本日はプログラムに先立ち感謝と追悼の献唱として、拙作レクイエムから「ラクリモーザ(涙の日)」を演奏し、始めさせていただきます。故・野田先生はじめ、神戸栄光教会の皆様方のお力添えに心から感謝申し上げます。

上田 益(うえだ・すすむ) 作曲家、レクイエム・プロジェクト代表



1956年大阪生まれ。京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業。廣瀬量平氏に師事。京都音楽協会賞受賞。1980年度文化庁芸術家国内研修員に選出され、東京において研鑽を積む。1982年、関西での本格的な活動を開始し、委嘱を含む数多くの作品を作曲。1994年秋に拠点を東京に移し、クラシック音楽の作品のほか、広島アジア競技大会「開会式」「閉会式」の音楽、長野オリンピック・公式楽曲「WINTER FLAME」などのイベント音楽や、NHKテレビの番組用音楽をはじめ、「1リットルの涙」「黒革の手帖」などのテレビドラマ、アニメなど様々なジャンルにおける創作活動を行っている。

1999年からは神戸ルミナリエの会場演出用音楽を、コロナ禍で開催が見送りとなる2020年まで毎年担当し、その楽曲は120曲を超える。2005年からは阪神・淡路大震災犠牲者のための「追悼コンサートいのりのとき」を神戸市内で毎年開催。「追悼と希望」「大切ないのちへの思い」をテーマに、被災地・人・地域を歌でつなぐ合唱プロジェクト「レクイエム・プロジェクト」を2008年から神戸で始め、「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～」(全音刊)を作曲。以後その活動は自然災害や戦災で傷ついた全国10箇所にも広がり、現在も北いわて、仙台、東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎の7箇所でも継続した活動を行う。

海外にも「レクイエム・プロジェクト」は広がり、ブラハ(2012)、ウィーン(2014)、バチカン・イタリア(2016)、ポーランド(2019)での公演を成功に導く。特に2014年10月にはウィーンの聖シュテファン大聖堂において、拙作レクイエムは、大聖堂史上初めての日本人作曲家のレクイエム演奏として大成功を収める。また2016年には、バチカン教皇庁の特別な許可を得て、サン・ピエトロ大聖堂でのミサ、システリーナ礼拝堂、アッジジのサン・フランチェスコ聖堂などにおいて「復興祈念、平和への祈り」と題したレクイエム・プロジェクトのコンサートを行い、好評を博す。その際アッジジで初演した「ミサ・プレヴィス～平安への祈り～」(全音刊)は、バチカンにおいてフランシスコ教皇へ献呈する栄誉を与えられた。合唱作品も多く、現在ラテン語や日本語テキストによる22タイトルの合唱作品が、全音楽譜出版社とカワイ出版から刊行されている。

レクイエム・プロジェクト実行委員会

代表: 上田 益、副代表: 高田 薫

レクイエム・プロジェクト神戸実行委員会

青山佳弘、青山真理子、浅野美佐子、高田裕子

第1部

① Missa Brevis (抜粋) ~平安への祈り~ (ローマ法王献呈作品) ……………指揮：上田 益 ピアノ：陶山薫子

ソロ：ソプラノ 北爪かおり、アルト 栗木充代、テノール 眞木喜規、バス 大塚雅仁

1. KYRIE キリエ (あわれみの讃歌)

Kyrie eleison. 主よ、あわれみたまえ。
Christe eleison. キリストよ、あわれみたまえ。
Kyrie eleison. 主よ、あわれみたまえ。

2. GLORIA グローリア (栄光の讃歌)

Gloria in excelsis Deo. 天のいと高きところには、
Et in terra pax hominibus 神に栄光。
bonae voluntatis. 地には善意の人に
Laudamus te. 平和あれ。
Benedicimus te. われら主を誉め、
Adoramus te. 主をたたえ、
Glorificamus te. 主を拝み、
Gratias agimus tibi propter 主をあがめ、
magnam gloriam tuam. 主の大いなる栄光のゆえに感謝し
Domine Deus, Rex coelestis, たてまつる。
Deus Pater omnipotens. 神なる主、天の王、
Domine Fili unigenite, 全能の父なる神よ
Jesu Christe. 主なる御一人子
Domine Deus, Agnus Dei, イエス・キリストよ
Filius Patris. 神なる主、神の小羊、
Qui tollis peccata mundi, 父のみ子よ。
miserere nobis. 世の罪を除きたもう主よ、
Qui tollis peccata mundi, われらをあわれみたまえ。
suscipe deprecationem 世の罪を除きたもう主よ、
nostram. われらの願いをききいれたまえ。
Qui sedes ad dexteram Patris, 父の右に座したもう主よ、
miserere nobis. われらをあわれみたまえ。
Quoniam tu solus sanctus. 主のみ聖なり、
Tu solus Dominus, 主のみ王なり、
Tu solus Altissimus, 主のみいと高し
Jesu Christe. イエス・キリストよ。
Cum Sancto Spiritu 聖霊とともに、
in gloria Dei Patris, 父なる神の栄光のうちに。
Amen. アーメン。

omnia saecula. 生まれ、
Deum de Deo, lumen de lumine, 神よりの神、光よりの光、
Deum verum de Deo vero. まことの神よりのまことの神、
Genitum non factum, 造られずして生まれ、
consubstantialem Patri 父と一体なり、
per quem omnia facta sunt. すべては主によりて造られたり。
Qui propter nos homines, 主は、われら人類のため、
et propter nostram salutem またわれらの救いのために
descendit de coelis. 天より下り
Et incarnatus est 聖霊によりて、処女マリアにより
de Spiritu Sancto ex Maria 御からだを受け、
Virgine: et homo factus est. 人となりたまえり。
Crucifixus etiam pro nobis: ボンシオ・ピラトの下にて、
sub Pontio Pilato passus, われらのために十字架につけられ、
et sepultus est. 苦しみを受け、葬られたまえり。
Et resurrexit tertia die, 聖書にありしごとく、
secundum Scripturas. 三日目によみがえり、
Et ascendit in coelum 天にのぼりて
sedet ad dexteram Patris. 父の右に座したもう。
Et iterum venturus est cum 主は栄光のうちに再び来たり、
gloria judicare vivos 生ける人と死せる人とを
et mortuos, 裁きたもう、
cujus regni non erit finis. 主の国は終わることなし。
Et in Spiritum Sanctum, われは信ず、主なる聖霊、
Dominum et vivificantem: 生命の与え主を。
Qui ex Patre Filioque procedit. 聖霊は、父と子よりいで、
Qui cum Patre et Filio simul 父と子とともに
adoratur et conglorificatur: 拝みあがめられ、
qui locutus est per Prophetas. また預言者によりて語りたまえり。
Et unam Sanctam catholicam われは、一・聖・公・使徒継承の
et apostolicam Ecclesiam. 教会を信じ、
Confiteor unum baptisma in 罪の許しのためなる
remissionem peccatorum. 唯一の洗礼を認め、
Et exspecto resurrectionem 死者の
mortuorum. よみがえりと
Et vitam venturi saeculi. 来世の生命とを待ち望む。
Amen. アーメン。

3. CREDO クレド (信仰宣言)

Credo in unum Deum, われは信ず、唯一の神、
Patrem omnipotentem, 全能の父、
factorem coeli et terrae, 天と地、
visibilium omnium, 見ゆるもの、見えざるもの
et invisibilium. すべての造り主を。
Et in unum Dominum, われは信ず、唯一の主、
Jesum Christum, Fillium Dei 神の御一人子、
unigenitum. イエス・キリストを。
Et ex Patre natum ante 主は、よろず世の先に父より



第2部

② 混声合唱組曲「黙礼」(詩:和合亮一)……………指揮:上田 益 ピアノ:林 葉子

和合亮一(1968~)

福島生まれ。第4回中原中也賞、第47回晩翠賞、みんゆう県民大賞、NHK東北放送文化賞、福島県文化賞などを受賞。2011年、東日本大震災直後かの福島からTwitterで連作詩「詩の礫」を発表し続け、同年5月、オランダのコンセルトヘボウに招致、朗読にて福島の想いを発信するなど、国内外から注目を集める。詩集やエッセイ集、絵本など多数刊行、特に震災後の著作は20冊を超え、これらは世界各国で翻訳、出版された。2017年7月、詩集「詩の礫」がフランスにて翻訳・出版され、第1回ニュンク・レビュー・ポエトリー賞を受賞。NHK復興サポーター、福島県教育復興大使。

1. 祈る

そこに静かな街があった
そこに静かな海があった

静かな海の
静かな潮なごを
聞いて暮らす
毎日があった

ボールの転がる音があった
自転車が
通り過ぎていく音があった
美しい花の揺れる音があった
茶碗洗う音があった
母の呼ぶ音があった
笑い声* ため息があった
階段を上がる音があった
なわとびをする音があった

祈るまえに 願われている
伝えるまえに 愛されている
悲しむまえに ながれている
つかむまえに 握られている

心に 声に
涙に 手に

黙礼
*曲中では「笑い声」

2. 風

久しぶりの再会よ
目と目の合った瞬間よ
あふれる涙よ 話の途切れ目よ
風の折れ目よ 私たちの命よ
星よ 手渡される魂よ
風に吹かれている
行方の知らない雲よ
大切なあなたよ

土の匂いよ 草いきれよ
枝のそよぎよ 明日の朝よ
芽生える大地よ 雲よ

心に 声に
涙に 手に

命に黙礼すると 風
風のことを
あなたに伝えようとする
もう あなたの街を吹き渡って
過ぎていきます
そんなひとときを
あなたに捧げます

祈るまえに 願われている
伝えるまえに 愛されている
悲しむまえに ながれている
つかむまえに 握られている

3. 「命」よ

命を「命」と告げるよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と囁くよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と泣くよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と叫ぶよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と咳くよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と歌うよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と黙るよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と怒るよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と伝えるよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と悲しむよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」と書くよりも
命は命のままに「命」よ

命を「命」に祈る この時
命は命のままに「命」よ

命を「命」と悲しむよりも
命は命のままに「命」よ

祈るまえに 願われている
伝えるまえに 愛されている
悲しむまえに ながれている
つかむまえに 握られている

心に 声に
涙に 手に

黙礼

4. あなた

あなた
あなたの生きた日々を
私は想っています
あなたの涙を
頬に流しながら

黙る 黙るしかないのか
礼をする そうするしかないのか
生き残った者も 死に行く人も
静かに 空を見つめて
光の輪
黙礼すると
雲が流れる

あなた
あなたの生きた日々を
私は想っています
あなたの魂に
魂をつなぎながら

母よ 子どもよ 青空よ
風よ 小石よ 波頭よ
くるみの木よ 夕暮れの山よ
父よ 宇宙よ

黙る 黙るしかないのか
生きていく そうするしかないのか
生き残った者も 死に行く人も
静かに 空を見つめて
星と星
黙礼すると
雲が流れる

5. 生きる

黙礼する
雲が流れる
切れ間に光
鮮やかな

蝶
をとらえた
小さな羽に
山と河の
季節のきらめきが
見えた
気がした

驚いて
逃して
しまった
そのあとは
かがやく
山と河に
吸い込まれて
いった

蝶
命を
生きる
生きよ
命よ



～ 換気・休憩(15分) ～

第3部

3 混声合唱組曲「生きとし、生けるものへ」(詩:上田由美子)……………指揮:上田 益 ピアノ:陶山薫子

上田由美子(1938~)

広島県生まれ。「広島は夏は街全体がこの時 静止する 晩景色を伏せ 黙禱するかのよう夕風を従う」~被爆体験を持つ上田由美子は、代表作「八月の夕風」をはじめとする「被爆者が被爆者にささげる祈り」の詩を多数発表している。「一枚のハガキ」で白鳥省吾賞最優秀賞受賞。「水の声」が第7回駿河梅花文学賞秀逸賞受賞。第七回ふる里の詩入選。上田由美子詩画集「白い闇」(2007年/澤標)、詩集「八月の夕風」(2009年/コールサック社)を出版。「蒼いざくら」(2016年/土曜美術出版販売)。日本現代詩人会、日本詩人クラブ、中四国詩人協会、広島県詩人協会の各会に所属。詩誌「火皿」「竜骨の会」「シャレイユ」会員。

1. 野辺

野辺に咲くりんどうの花
より添う露の光が
暗闇の中の花を照らす

地の下では巡り来る春にそなえて
うごめくものを探りながら
命の糸の繕いが始まる

誰にも気づかれず
野辺の一隅でそっと咲く
りんどうの花にも露が寄りそう

命あるものはすべて等しく
自然の恵みが降りそそぐ
人知れず咲いた花にも降りそそぐ

ただ無心に紫の色を濃く薄く
天に示して

2. コスモスと少年

野辺に群れなすコスモスの花
色を集めて今を咲く

コスモスの花が数本
少年の手の中で揺れている
母を追ってコスモスの花畑
白い帽子が遠のいていく

コスモスの花を絵にした少年は
二十歳(はたち)になって戦場へ

コスモスの色を中心に
花野を通り風になりながら
母の夢を置き去りにして大空へ
命を天空にあずけながら

やがて雲にからめ取られて
遥か彼方の空の果へと消えていった

戦場から母に届いた愛子(いとしご)の便り
一本のコスモスの花を押し花にして
コスモスとともに母の胸に甦える

3. 海神に守られて

遥かな涯(はて)から聞こえてくる
わが子と呼ぶ母の音が
海なりを振りほどいて
風になって吹いておいで
雨になって降りておいで
この母のもとへ帰っておいで

幾たび季節がめぐってきても
幾多の苦しみを海に溶かしても

遥かな涯から聞こえてくる
わが子と呼ぶ母の音が
絆がちぎれて消えた子よ
水平線の青の中へ
凍(いて)ついた海の底から
漣(さざなみ)を分けて帰っておいで
夕日に吸い込まれながらも
母と子の呼び合う声が
波間をさ迷い聞こえてくる
海神(わだつみ)にまもられながら
闇夜をたぐり寄せながら
光の先には 幼子がいて

4. 天と地と海と

万人の心に万の景色の海がある
広い海原のどこからも
若き兵士の命の断片が
海鳴りの中で響き合う
遥か海の果から
日が昇り日が沈む時
人が生まれ人が死す
海は幾多の骸(むくろ)を深々と抱いて
祈りの詩を海の果まで広げていく

万人の心に万の景色の海がある
あなたの嘆きを
私の嘆きを
たとえ戦いに敗れようと
森羅万象祈りの詩(うた)を
広い海原に轟かす
風が波を切りながら
その声は一つになって
天空へと吸い込まれていく



第4部

4 混声合唱組曲「また逢える」～神戸初演～（詩：寺島英弥）……………指揮：上田 益、ピアノ：林 葉子

寺島英弥(1957～)

福島県相馬市出身。早稲田大学法学部を卒業後、河北新報社記者。『こころの伏流水 北の祈り』、『オリザの環』の連載取材班で日本新聞協会賞。論説委員、編集局次長兼生活文化部長、論説委員を歴任。2011年3月より東日本大震災、福島第一原発事故の被災地取材し、2019年よりローカル・ジャーナリストとして活動。尚綱学院大客員教授。2001～02年にフルブライト奨学生として米国デューク大留学。主著に「悲から生をつむぐ『河北新報』編集委員の震災記録300日」(講談社)、「東日本大震災 希望の種をまく人びと」、「海よ里よ、いつの日にも還る 東日本大震災3年目の記録」、「東日本大震災4年目の記録 風評の厚き壁を前に」、「何も終わらない福島の5年 飯館、南相馬から」、「福島第一原発事故7年 避難指示解除後を生きる」、「被災地のジャーナリズム 一東日本大震災10年『寄り添う』の意味を求めて一」(以上、明石書店)、「二・二六事件 引き裂かれた刻を越えて 青年将校・対馬勝雄と妹たま」(ヘウレーカ)。

1. あの日

明日 それはどんな時だったのか
昨日 人の暮らしは のどかに明け暮れ
古き町は永遠(とわ) に変わらぬと信じた
目の前にあるものは なにもなくなった町

浜 そこに何が満ちていたのか
市場 朝 帰り船 水揚げ ざわめき
イカ焼くばあちゃんよ 夏の子どもらよ
目の前にあるものは わが家の跡を探す人影

あの街も 暮らしも みんな どこへ
松原も 港も 漁師も みんな どこへ

波が洗ったトンネルに
幾多たたずむ影のあり
高き岩場におられた地藏
なぜか海に面(おもて) 向け
祈り捧げる姿にて
潮の騒ぎに声交じる

「共に泣け されど信じよ 遠けれど明日を」

2. 一枚の古いレコード

たった一枚落ちていた ジャケットのない 古いレコード
針を落とせば トランペットが 輝くばかり
店にあふれた 南の島の コーヒーの香り
あの日は夢のように消えて たった一枚 古いレコード

青い空に飛ばされた 店の形見の 古いレコード
ひげのあるじは後も追わずに 「もう振り向かない」
海が残した砂の中 春の陽浴びて 黄色い水仙
レコードより大切な たった一つの 夢を見つけた

終のすみかだと 住んだこの地に
また 店をつくろう

憩う場がほしい 誰かのために
私は 立ち上がる

3. また逢える

大切なものを喪(な)くすから 人は悲しむ
私にとっては あの私 の命
だれの声も届かぬ間に 私はいた
光の差さぬ世界で 泣いていた

命も消えかけた その時 私は確かに聴いた
「また逢える」 だから生きろと
「いつか逢える」 だから生きろと
精いっぱい命を生き
その先で あの子は待っていると

哀しみなさい 泣きなさい
哀しみのなか あの子は生きる
哀しみは 私の愛
あの子の愛

光の先の あの子に導かれ
残された この生(いのち)をたどる

また逢える
いつか逢える

魂となって逢える日まで

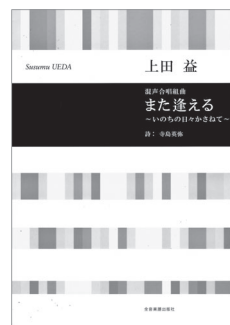
4. このいのち 明日へ

天明の代の同胞(はらから)たちが
冷たい雨の夏 実りなき田に泣き
望み失い 道に伏し 家を捨て
されど わが祖は 荒れ野に鋤(くわ)を振るった
そして われら ここに生(せい)を受けた

新たな苦難が降り注いでも
思い継ごうと 私はこの地に戻り
荒れ野耕し 鋤振るい 種をまく
あの子らが この地に還る日のために

長き日々をかさねて
ふるさとに 生かされてきた
きっと還る 約束の旅

このいのち 明日へ



北爪かおり(きたづめ かおり) ソプラノ



兵庫県立御影高等学校、京都女子大学文学部教育学科音楽教育学専攻卒業。同大学大学院表現文化専攻修了。古楽、ア・カペラアンサンブル、ソリストとしてバッハ「口短調ミサ曲」、モーツァルト「レクイエム(パイプオルガン版)」、ブラームス「ドイツレクイエム(ピアノ連弾版)」、ロッシーニ「小荘厳ミサ曲」等宗教曲での活躍に加え、レクイエムプロジェクト全海外公演、「上田益 レクイエム」「神戸ルミナリエ」CD収録に参加。Voice=Spective、Trinity Vocal Consort Japan、KANSAIBAROQUE2020メンバー。神戸・佐用のりのとき合唱団、日本製鉄混声合唱団、毎日文化センター等で指導。

栗木充代(くりき みつよ) アルト



京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。兵庫県独唱独奏コンクール1位、友愛ドイツ歌曲コンクール3位、日仏声楽コンクールにて奨励賞、フランス音楽コンクールにてフランス総領事賞受賞。ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」をはじめ、様々な宗教曲のアルトソリストとして出演。神戸ルミナリエの会場演出音楽に声楽アンサンブルとして録音に参加。CD「日本歌曲全集」の収録に参加し、中田喜直の歌曲を収録。2016年よりピアニスト益子明美氏との歌曲による連続リサイタルを開催。コロナ禍にある今年は初のオンライン配信も予定。神戸音楽家協会、神戸フォーレ協会、ひょうご日本歌曲の会、神戸波の会、歌曲研究会ソワレの会、各会員。神戸いのりのとき合唱団、あじさい混声コーラス、すずらんコーラス等で、合唱指導、ヴォイストレーナーを務める。

眞木喜規(まき よしのり) テノール



主に教会音楽の分野においてバッハのカンタータ、ミサ曲で数多くのソロを歌い、受難曲の福音史家等で活躍。'02年ライブツィヒ・バッハ音楽祭にソリストとして出演。神戸ルミナリエの会場演出音楽に声楽アンサンブルとして録音に参加。現在、神戸市混声合唱団団員。Voice=Spective ディレクター。神戸いのりのとき合唱団合唱指導スタッフの他、日本製鉄合唱団ヴォイストレーナー、室内合唱団えべっさんず、コルス・シンフォニアクス、各指揮者。日本キリスト教団マラナ・タ教会モテットを歌う会、ヴェリタス・コア大阪、アンサンブル・ヴォーチェ等で合唱指導を担当している。

大塚雅仁(おおつか まさと) バス



声楽家、合唱指揮者。群馬県生まれ。千葉大学法経学部法学科、東京藝術大学声楽科を卒業。武蔵野音楽大学別科を修了。声楽を堀内康雄、多田羅迪夫、野本立人、大島博、指揮法を今村能、森垣桂一の各氏に師事。オペラでのバリトンの諸役に加え、フォーレ、上田益「レクイエム」ベートーヴェン「第九」『合唱幻想曲』、ヘンデル「メサイア」などのバリトンソロを務める。また、合唱指揮者栗山文昭氏のもとで、様々な合唱の研鑽を積む。「第2回 若い指揮者のための合唱指揮コンクール」第3位。近年、青山学院大学の「オール青山メサイア」合唱指導を担当。現在、レクイエム・プロジェクト「東京いのりのとき合唱団」をはじめ、多数の合唱団に指揮・指導者として関わっている。

林 葉子(はやし ようこ) ピアノ



大阪音楽大学卒業。同大学専攻科修了。ソソロサイタル、ジョイントリサイタルなどのソロ活動の他、室内楽、声楽・合唱伴奏などで数多くのコンサートに出演。大阪音楽大学教育助手を経て、現在主に歌曲・合唱分野での伴奏者として活動。松浦豊明、梅本俊和、益子明美の各氏に師事。神戸音楽家協会、神戸フォーレ協会会員。

陶山薫子(すやま かおるこ) ピアノ



大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。なにわ藝術祭新進音楽家競演会、若い音楽家たちの飛翔、〈兵庫県舞台芸術団体フェスティバル参加事業〉ピアノデュオ名曲の調べ、サマーミュージックフェスティバル大阪2014等の演奏会に出演。2006年ポーランド国立ショパンアカデミー学院夏期セミナー受講。現在、器楽、歌曲や合唱等の伴奏者として活動。伊藤勝、益子明美の各氏に師事。レクイエム・プロジェクト神戸いのりのとき合唱団、豊中コール花音ピアニスト。神戸音楽家協会、歌曲研究会「ソワレの会」各会員。

神戸いのりのとき合唱団

- 指導：北爪かおり、栗木充代、眞木喜規 ピアニスト：林 葉子、陶山薫子

ソ プ ラ ノ 木戸登紀子、広井かほる、熊谷厚子、高田薫、高田裕子、藤岡敏子、近藤朋子、三條エリ子、央倉正子、平見安佐子
武貞育子、白藤悦子、山崎妙子、八代谷晶子、岸田敬子

ア ル ト 青山真理子、亀井純子、和田神奈子、浅野美佐子、高田万里、中津智子、宮田瑞江、多田真知子、森 昌子、村上純子
三宅のぶこ、伊藤芳恵、村上玲子

テ ノ ー ル 青山佳弘、藤井一郎、白川国宏、山田達也

バ ス 牧田憲一、岡本精二

東京いのりのとき合唱団 有志

- 指導：本宮廉子、横町あゆみ、鏡 貴之、大塚雅仁 ピアニスト：倉片 明、箭野純子

ソ プ ラ ノ 石井由美子、川崎洋子

ア ル ト 池田美恵子、木村美佐子

テ ノ ー ル 辻 直浩

バ ス 石井洋一

レクイエム・プロジェクト広島合唱団 有志

- 指導：佐伯康則 ボイストレーナー：大島久美子 ピアニスト：鎌田章子、大井里菜

バ ス 平岡昭洋

レクイエム・プロジェクト長崎合唱団 有志

- 指導：志岐光昭、大岩しのぶ ピアニスト：ゲイル徳子、吉田真深

ソ プ ラ ノ 山川加津枝

ア ル ト 江添郷子、島 眞美子、松本新子

公 募 団 員 募 集 !!

来年は、1月15日（日）神戸文化ホール・大ホールで、
ピアノ、プロのオーケストラとともに15周年記念コンサートを開催。

来年、レクイエム・プロジェクトは活動15周年を迎えます！！
神戸ルミナリエの音楽にも2009年以降毎年参加してきた
レクイエム・プロジェクト神戸いのりのとき合唱団では
15年の思いを込め、共に歌い、共に伝える
公募団員を新たに募集します！

混声合唱を中心に
練習するほか、スキルアップの
ために女声合唱、
男声はグレゴリア聖歌なども
歌います！

2022年12月には、これまでのルミナリエ楽曲や、
再開を願って新たに作曲した楽曲による、神戸ルミナリエをイメージした
ライブ配信コンサートを計画中！プロの声楽家や演奏家とともに
合唱団員も出演予定。

<https://www.requiem-project.com/>



写真：レクイエム・プロジェクト活動10周年記念公演（2018年1月21日、神戸文化ホール・大ホール）の様子

- 募集パート ソプラノ、アルト、テノール、バス 全パート ※ご夫婦、親子でのご参加も大歓迎です。
- 参加資格 趣旨に賛同いただける方。合唱経験は無くても構いませんが、ある程度楽譜が読める方。
趣旨 「追悼」「大切ないのちへの思い」をテーマに、悲しみや苦しみ、未来への願いや希望を、プロジェクトで生まれる合唱作品に託し、伝えていくプロジェクトです。
- 練習会場 主に雲内教会（阪急「六甲」駅、南へ約5分）、ふたば学舎（JR、市営地下鉄西神山手線・海岸線「新長田」駅、南へ約13分）など。
- 練習楽曲 必須楽曲「レクイエム～あの日を、あなたを忘れない～（全10曲）」のほか、プロジェクトで生まれた日本語の混声、女声作品。
*公募団員はレクイエム以外は各自のレベルに合わせて選択可能です。ラテン語の読み方も指導しますので、ご安心下さい。
*練習に際しては、新型コロナ感染防止対策を行っています。
- 練習日 原則として月3回。※土曜夜18時～21時。そのうち、月2回以上参加できる方。
- 会費 月額3,000円 自己都合による欠席の場合も、会費を納入いただけます。楽譜は別途購入していただきます。
*公募新規団員の入会費と事務費（各1,000円）を、2023年のコンサート終了月まで免除とさせていただきます。
- 申込方法 以下のいずれかの方法でお申し込み下さい。お申込みに際しては、お名前、ご住所、電話番号（携帯番号もできるだけご記入下さい）
メールアドレス（無い場合は不要）を、必ずお書き添えください。
メール：requiem@music.nifty.jp ファックス：03-6701-7174
- お問合せ メール、または携帯電話 080-5181-6692（担当：上田）まで。

レライエム・プロジェクトとは

作曲家・上田 益(うへだ すすむ)が主宰する「レライエム・プロジェクト」は、人と人、地域と地域を繋ぎつなぐ合唱プロジェクトとして、阪神・淡路大震災の被災地で活動し、2008年に始まりました。これまで全国10箇所で開催し、現在、北いわて(久慈、野田村など)、仙台・東京、神戸、兵庫県佐用町、広島、長崎といった自然災害や戦争で傷ついた7地域で継続した活動を行っているほか、海外公演(フランス、ウイーン、バチカン、イタリヤ、ポーランド)も行っています。
<https://www.requiem-project.com>



レライエム・プロジェクト東京2015
 ~被災後7年、追悼と希望そして平和への思いを未来へへ
 (チノワラウとう 大ホール)



現在までのプロジェクト実施地域、関連活動地域

神戸 (2008年2月~現在)
 レライエム・プロジェクト発足の地。阪神・淡路大震災犠牲者の追悼をきっかけに2008年2月から準備活動が始まり、7月から合唱団の練習を開始。現在、活動14年目。2016年までは毎年震災の日である1月17日にコンサートを実施。2017年より、他地域の団員が参加しやすい日程で開催。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、活動の中心的存在。毎年コンサートを開催。



兵庫県佐用町 (2010年11月~現在)
 2009年に発生した水害犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。現在活動11年目。各活動地域の中で遠声合唱団から唯一の女声合唱団に昨年変更。数年に1回コンサートを開催するほか、積極的に合唱団としての定期演奏会を行う。

長崎 (2012年9月~現在)
 原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。趣旨に賛同し、公募により集まった合唱団員数は全国でも有数。2015年のコンサートは長崎市長蔵70周年記念事業に、2020年のコンサートは同75年記念事業に採択。浦上天王堂で追悼コンサートを開催。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを実施。

沖縄 (2010年4月~2015年6月)
 沖縄戦の犠牲者追悼をきっかけに那覇で活動を開始。2015年の沖縄戦終結70年の追悼コンサートをもって5年間の活動を終了。

広島 (2013年2月~現在)
 原爆犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。さらに2014年に発生した大規模土砂災害犠牲者の追悼も加わる。現在活動9年目。ほぼ毎年コンサートを開催。

札幌 (2012年3月11日)
 東日本震災チャリティーコンサート実施。神戸と東京の団員有志が参加。

北いわて (2013年11月~現在)
 東日本震災犠牲者の追悼をきっかけに活動を開始。久慈、野田村を中心に、八戸や盛岡を含む周辺地域からも参加。現在活動8年目。

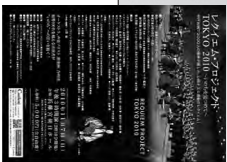
気仙沼 (2015年4月~8月)
 東日本震災犠牲者の追悼をきっかけに期間を限定して活動し、コンサートを開催。

仙台 (2013年4月~現在)
 東日本震災被災地被災復興センターに和合亮一氏との対談や合唱で上田益、中心的活動地域。毎年回、コンサートを開催。大船渡や陸前高田の人たちも、毎年仙台のコンサートに参加している。現在活動9年目。

福島 (2012年3月16日)
 福島市主催の震災復興コンサートに和合亮一氏との対談や合唱で上田益、指導スツツワ、神戸と東京の合唱団有志が出演。

南相馬 (2013年9月~2014年4月)
 東日本震災被災者の追悼をきっかけに期間を限定して活動し、コンサートを開催。

東京 (2010年4月~現在)
 神戸について全国2番目の実施地域。各地のプロジェクト・コンサートに毎回有志が多く参加し、神戸とともに活動の中心的存在。東京大空襲、関東大震災などの災害を活動根拠としている。数年に1回コンサートを開催するほか、不定期に合唱団としての定期演奏会を行う。現在活動12年目。



<海外での活動>

- フラハ(チエゴ) : 2012年4月1日、東日本震災チャリティーコンサートをドヴォルザーク・ホールで開催。日本から神戸・東京の声楽ソリスト5人と合唱団有志17人が参加。在チエゴ日本国大使館後援。
- ウイーン(オーストリア) : 2014年10月11日、聖シュテファン大聖堂主催公式コンサート開催。東日本震災から5年を迎え、その追悼の思いを込め、神戸、東京の声楽ソリスト(指導者)8人、仙台、南相馬、東京、神戸、広島、長崎から参加したプロジェクト合唱団有志、そして仙台フイルメンバード人を含む総勢158人と現地のプロ・オケストラにより演奏。
- 復興祈念と平和への祈りを込め、バチカン教皇庁の特別な許可を得て、「バチカン・イタリア特別公演」を2016年9月に実施。サン・ピエトロ大聖堂ミサでの演奏。ソリストチノバレー堂での献唱(以上バチカン)、セント・ニコラ教会(ワレントウエ)での演奏。聖フランチェスコ聖堂(ワレントウエ)での演奏。聖フランチェスコ聖堂で献唱した。プロジェクト主宰者・上田益作曲「ミカ・クレヴィアス〜平安への祈り」は、初演に先立ち教皇フランシスコに献呈する栄誉をバチカン教皇庁から与えられた。
- 「レライエム・プロジェクトinポーランド〜平和への祈り〜」を、ウラコフ市特別名誉賞助役後援、在ポーランド日本国大使館後援のもと、2019年10月に実施。渡多に演奏の機会を持っていないシロバネゴワ、平和教会でのオルガンのコンサート、ウラコフ聖マリア教会での献唱、聖カタリーナ教会でのウラコフ・フイリバーモニー管弦楽団との共演、ワルシャワでは聖十字架教会ミサでの演奏や、ワルシャワ大学日本学科設立100周年記念行事の一環としてコンサートを実施。



技術の力で未来を支える



建設ファスニング技術を通じて道路・鉄道・建築耐震などの安全対策に注力し、社会の発展と環境づくりに貢献します。

GBRC 性能証明 第01-03号 改2

ハイブリット 耐震補強工法

本工法は、工事時の騒音や振動、粉塵を軽減できる特長を生かしながら、病院や学校あるいは事務所建築を中心とした、居ながらの耐震補強工事を可能としました。



内付工法 内装仕上げ例



外付工法 外観



ケー・エフ・シーはレクイエム・プロジェクトを応援します！



建技審証第1203号

せん断補強 RMA工法

「既存ボックスカルバートや擁壁などの連続壁に対し、内空断面を侵さず補強を行いたい。」そんな希望にお応えするため開発されたのが、RMA工法です。



RMA工法施工前



RMA工法施工後

【事業内容】

耐震関連工事の設計・施工及び環境・安全施設工事
建設用ファスナー類及び付属品の販売・施工
トンネル掘削用資材の販売

【事業所】

東京・大阪・名古屋・仙台
横浜・静岡・岡山・広島・福岡



株式会社 ケー・エフ・シー

<http://www.kfc-net.co.jp>